

JASAHI 2月3日増大号 320円 朝日ジャーナル Journal

天皇報道・メディアを斬る

落合恵子、黒田清、小中陽太郎、斎藤茂男

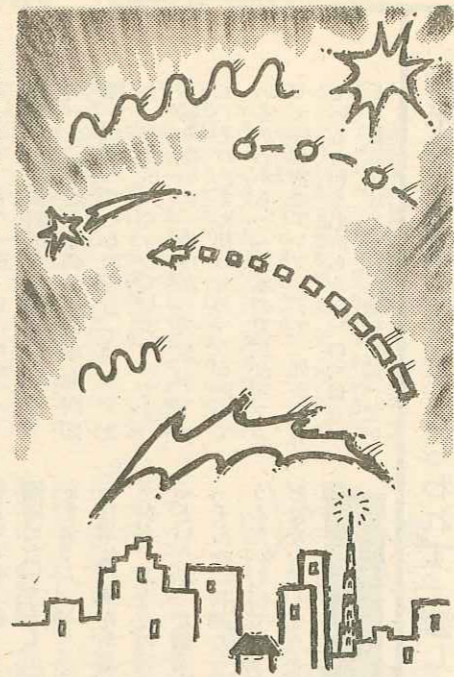
公開セミナー「日本の世紀が来る」

聖子ブランドの文学 浅田彰、富岡多恵子

ソ連サハリン州コルサコフ。日本時代の拓殖銀行 (P118-P12)



久しぶりに活気づいた「メデー」のアンテナグラ放送



われわれにとって、電波は空気のようなものになっている。その「空気」がある日突然、自粛し硬直してしまつたらどうするか。息苦しさの中で、自前の「空気」を作り出す試みが、ささやかに、確かにあつた。

イラスト・沢田真理

●批評家
粉川 哲夫

感じだつたな」とF君はいう。ミニFMというの、微弱な電波を使った合法のFM放送だが、F君が聴いた放送は、ひょっとするとミニFMよりももっとパワーの強い局だったのかもしれない。

BBC並みの出力?! イギリスの海賊放送

K君は、その日の夜、車を運転して環七を走っていた。運転中FMのラジオをつけておくのが癖になっている彼は、J-WAVEまでもが自粛してしまつたのにならぬおぼえた。世田谷区に入ったとき、がまんできなくなった彼は、デジタ

ル式のラジオのダイヤルをオースキャンした。すると突然、いままでとはうってかわつたソウル・ミュージックがギンギンの音で飛び込んできた。一瞬彼は、自粛が解除になったのかと思つたが、周波数を見ると、それはFM東京、NHKFM、FMジャパン、FM横浜のいずれの電波でもない。

K君は、ときどきカーラジオでミニFMの放送をキャッチする。が、ミニFMの場合には、道路を五分も走るとすぐ聴こえなくなつてしまふ。しかし、この日の放送は違つていた。車が中野区に入つても放送はまだ聴こえる。「日本にも海賊放送があつたんだね」K君は目を輝かせていった。

「海賊放送」というのは、電波法や放送法を無視して放送を行うことをいう。日本では規制が強いから、あるいは何でも右へならえする文化のためか、あまり目立たないが、ヨーロッパでは昔から海賊放送が放送文化の一部をなしている。

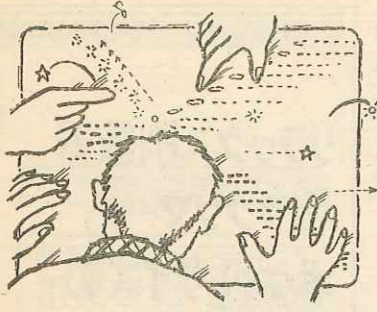
わたしは昨年ロンドンで、びつしりとFM帯をうめていく数十局の放送のうち、二〇局以上

なつてしまひ、とても聴けたものではない。いらいらしながらFMのダイヤルを動かしていたら、突然、インタナショナルのメロディーがスピーカーから飛び出した。何だ何だ!? FMでも北京放送が聴けるのか!? が、そのテンポと音調は北京放送のそれではなく、歌詞もイタリア語である。いったいどうなっているんだ!?

インタナショナルがちゃんと終わらないうちに、今度は都はるみの演歌が鳴り出した。電波はあまり強くない。ラジオのアンテナを動かすと雑音がひどくなり、聴こえなくなる。これがうわさに聞く「ミニFM」か? 「選曲はめちやくちやだし、音も安手だつたけど、実に新鮮だつたねえ。閉めつきりの地下室に酸素の濃い空気が入ってきた

が海賊放送であることを知って感動した。おまけに、BBCが無視し続けたリバプール・サウンズを、公海上に浮かべた船の上からバンバン放送してイギリスのポピュラー・カルチャーの展開に貢献したあの海賊局「ラジオ・カロライン」までが復活して、スクラッチやニュー・レジャーなんかをノンストップで放送している。

これは、一時急転するかに見えたイギリスのラジオ政策がサッチャーの一声で右旋回し、ラジオの自由化が凍結されてしまつたことに反発した企業やラジオアクティビストたちが、公然と「海賊」行為に突入したためだつた。サッチャー政権は当面、状況を見守る様子らしく、



海賊放送の周波数や案内を載せているタウン誌まであつた。たまたま電話で話を聞くことができた海賊局KISS FMのマネジャーのM氏の話によると、五〇Wの送信機を四〇〇W程度で供給してくれるアンテナ市場があり、その製作にはなんとBBCの技術者が加わっているという。「だから、われわれの電波はBBC並みですよ」といって、M氏は笑つた。

ちなみに五〇Wという、東京二三区はカバーできる出力であり、日本でこんなものを使えば、一時間以内に電波監理局と警察が飛んできそうである。秋葉原あたりで部品を集めれば日本でも可能であり、経費も大してかからないが、そういうことをNHKの技術者がやるということはおよそ考えられない。

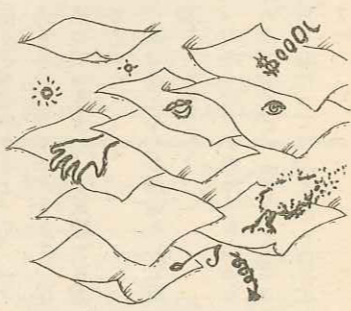
かつてミニFMブームの時代に、ある民間放送局の職員が音質的にすぐれたFM送信機を設計し、市販されたことがあつたが、その出力は厳密に「微弱電波」の規定を守つたものであり、せいぜい一〇〇μぐらいしか飛ばないものだった。日本では組織の人間は絶対に禁を

犯さないのである。しかしながら、昭和が終わつた日、日本にも海賊放送が出現した。これは、国家を至上のものとする管理者にとってはゆゆしきことかもしれないが、戦争・原発・公害・死刑・冤罪に端的に現れているように、国家もまた誤りを犯すし、国家犯罪というものがあつたのだということを知っている者にとっては一つの希望である。

色んな放送が聴ける深夜のビルの屋上

長年、ミニFMや海賊放送を聴くことに情熱を傾けてきたR君によると、昭和が終わつた日、ミニFM局のなかには普段よりも出力をアップして「海賊放送」になる局もあつたといふ。

彼は、マンションの屋上にアンテナを立て、二〇万円もする受信機で毎日電波ウオッチングをするのが趣味だ。アンテナは自室からリモコンで方向を自由に換えられるようになっており、ミニFMのようなかなり弱い電波でも探知する。

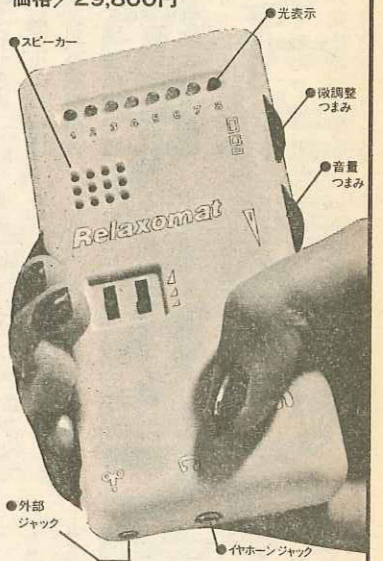


R君の話では、ミニFMブームが去つたといわれる昨今だが、自前でラジオする文化は確実に定着しており、現に、プロの放送が硬直してしまつたあの日には、どこからともなく数かぎりないアンテナ局が現れ、「ひからびた電波の砂漠にミクロなオアシスを生み出した」。「日本には海賊放送はないといふけれど、そんなことはないですよ」とR君はいう。「深夜、ビルの屋上などにポータブルラジオを持ち出して聴いてごらんなさい。ロッドアンテナの先に三〇センチぐらいの電線結び付ける」と感度がよくなりますね。いろいろな放送が聞こえますよ。つかまらないために音楽だけを流しているところが多いのはしかたがないけれど……」。

「ミクロ・ポリティクス」は

リラックス訓練器 「リラクソマート」 ポケットサイズの バイオフィードバック

西ドイツ・ボーライン社製
1983年ルクセンブルグ
国際発明展で金賞受賞/
価格/29,800円



リラックス訓練でストレス、イライラをコントロールして
集中力・記憶力を強化する!

「リラクソマート」は心身ともにリラックスした状態に自分を導くための自己訓練器。微妙な指先の発汗状態(リラックス度)を光と音の変化で知り、毎日10分程度のトレーニングで緊張感をほぐす「コツ」が学べます。そうした状態では容易にアルファ波と呼ばれる脳波が出やすくなり、集中力・記憶力・ひらめき等が格段にアップされます。

●具体的なリラックス法及び小川のせせらぎ等を収録したカセット(1巻・価格/1,700円)も用意。

リラクソマートの原理

- ①指先の皮膚電気抵抗(リラックス度)を電子音の変調と光の動きで知らせます。
- ②継続的にリラックスしていく自分を知ることで、あなたの脳は学習し、同時に身体全体にフィードバックしてリラックスの「コツ」を身体で学びます。

輸入発売元
有限会社レオン商事
〒123 東京都足立区西新井本町1-10-14
お問い合わせは TEL.03-890-7887代

まだまだのようだ。

多摩御陵に出かけた リポーターの報告も

その意味で、おもしろいとおもったのは、世田谷区のある局がやったトーク番組だ。この局がミニFM局なのか、それとも海賊局なのかはわからない。放送で自局の電話番号を名乗ってるところを見ると、ミニFMなのだろう。放送中にリスナーからバンバン電話がかかってきて、それを放送に入れていた。

「元号ってのはサ、だいたい歴史の逆を予想してるんだよね。明(治)はとうとう治まらず、大(正)は不正が絶えず、昭(和)の三分の一は戦争だったもの。平成は乱世じゃないの」



「平成にあやかって子供の名前を付ける親が必ずいるじゃん。平夫、平子ってわけにはいかなから、一平、平次、成美、成子……ウーン、男は町人風、女は可もなく不可もなくってとこかな」

そこへ、学生っぽい感じのリスナーから電話が入る。「オタクは新元号に批判的な人が多いみたいですけど、平成ってスッ

キリしていいんじゃないですか……」
電話を受けた局の男性(しゃべりなれを感じた人)は、ちょっとニガ笑いするような調子で、「いまここに居る人たちは、だいたいみな元号に反対なんです。だから、自然に元号には厳しくなるんです」と答える。

元号や天皇制についての議論が続いたところで、多摩御陵に歩いて行った「リポーター」からの電話報告が入る。「あたりは真っ暗だけど、四〇〇ぶおきに警官がいます」。

「え、もういちどいってくださせん? (リストを調べているらしい)……ちょっとウチにはないんですけど」
昭和の終わった日、パソコン通信もいっけなく活気づいてた。マスメディアとは一段別のところで一元的でないコミュニケーションが維持され、それを楽しむ人々がいたことは、天皇制下の日本におけるわずかの救いである。

赤いメロデー

12月刊
クルト・トゥホルスキー選集2
K・トゥホルスキー/野村彰 定価2000円
庶民の喜怒哀楽への共感を抱きながら、五つのペンネームを駆使して、諷刺、ユーモア小咄、シャンソン、政治評論など、人間の基本的自由と精神の解放を求めて多彩な活躍をした良心のエッセイストの第2評論集。

ヒトラーとゲーテ

クルト・トゥホルスキー選集1
K・トゥホルスキー/岩淵+野村他訳 定価2000円

ドイツ 世界に冠たるドイツ

(黄金)の二〇年代・ワイマール文化の鏡像
K・トゥホルスキー/野村彰 定価3200円
ハートフィールドの合成写真とトゥホルスキーの評論による20年代ドキュマン。

黒に染める

日本ビクチャレスク事始め
高山 宏著 予価3200円
〈視〉をキーワードに、平賀源内、鶴屋南北から泉鏡花、江戸川乱歩を経て、三島由紀夫、澁澤龍彦へと至る本朝異時空テクストに表われた、イコノロジー、ドラマトウルギー、テクステュアリティを介し、150枚の図版構成により日本のビクチャレスク美学を探る。

キャバレーの文化史(I)

道化・諷刺・シャンソン
H・グロイル/平井・田辺訳 定価4800円
完結! カバレット系譜をたどる世界的名著
諷刺小劇場

キャバレーの文化史(II)

ファシズム・戦後・現代
H・グロイル/岩淵・田辺他訳 定価4800円

ありな書房

〒113 東京都文京区本郷1-5-17-18
☎815-4604 振替 東京3-61373

1988年度刊行一覧

長くきびしい道のり

徐京植著 ●徐兄弟・獄中の生後植氏は釈放されたが勝氏はなお獄中にある。根源的魂の交響。¥1800

孤立する日本

安江良介著 ●多層危機のなかで核の脅威、平和問題、韓国情勢等の核心を問う講演9篇を収録。¥1800

分断か統一か

宋建錫他著 ●韓国解放前後史の認識分断克服・民衆主体の未来を展望する画期的論文8篇。吳満監訳 ¥2500

蝶蘭の花が咲いたよ

尾崎宏次著 ●演劇ジャーナリストの回想敗戦を境にして戦中と戦後を日本の新劇人達はいかに生きたか。¥2500

関東大震災 朝鮮人虐殺

襄昭著 1万人ともいわれる朝鮮人虐殺の現場をカメラに収め、古老の証言等で構成した写真報告。¥2000

辺境

井上光晴編集
第三回
季刊
〔記録社発行〕

6号の特集・自分史あるいは他者の記憶/追悼上野英信。7号の特集・私の戦後文学/武田泰淳戦地からの手紙。8号の特集/シナリオ「明日」他。各巻¥1500

西行夢幻

津田さち子
〔童牛社発行〕

なぜ西行は河内の弘川寺で入寂したのか。古典研究の第一人者が、磨きぬかれた言葉でつづる人間・西行への感動的な模索の旅の記。●口絵写真11部収録。¥2500

影書房

〒170 東京都豊島区駒込1-34-2ヒルクレス
ト駒込909号 TEL.03-946-3611(代)

新刊

環中国海の民俗と文化 3 祖先祭祀

渡邊欣雄編 (第1回配本)
沖縄の民俗学的研究と環中国海諸文化研究の成果を整理し、アジアの民俗文化の独自性を浮かび上がらせる比較文化研究論文集。定価5900円

台湾高砂族 系統所属の研究

復刻
臺北帝國大學土俗・人種學研究室編
移川子之藏・馬淵東一・宮本延人著
戦前の日本の文化人類学・社会人類学を代表する名著を復刻。台湾先住民の社会組織を解明。定価2万7000円

海外紙誌に見る 天皇報道

4刷出来
アジア民衆法廷準備会編
9月19日以降の海外紙誌に掲載された「天皇報道」を翻訳紹介。「天皇制」「マスコミの在り方」を考えるためのブックレット。定価550円

アジアチッシュ・ イデオロギーと現代

横村浩との対話
小川晴久著
反戦詩《間島/バルチザンの歌》で知られる天逝詩人横村浩の作品を通しアジアと共に生きる日本のあり方を提起した哲学ノート。定価1800円

●当社書籍は全国の書店でお求め下さい。
●電話注文は下記へ。(配送料読者ご負担)
BOOKSあすよむ ☎03-558-7331
ほんコミュニケーション ☎0422-46-8120

凱風社

〒112 東京都文京区後楽2-22-12
☎03-815-7633 振替東京5-88715